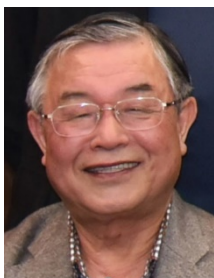


3年目に入った町田宮陵会の活動 – 本年度は総会を中止 –

町田宮陵会会長 ^{こが} 古家 秀紀 (昭38 貿易卒)

町田宮陵会も、活動再開後3年目に入りました。会の存在を身近に感じて頂くために会報の創刊号を発行致しましたのでご高覧をお願いします。当会のHPは神大宮陵会本部のHPにリンクして開設していますので時々にご覧下さい。



活動の一環として、今年も正月3日には、母校の箱根駅伝チームを応援する為に当会からは計9名で、東神奈川駅前の神大応援集中ポイントに出陣して来ました。応援ポイントに到着してから、待つこと約1時間。第9区のランナーは人間科学部4年生の古和田響選手。待ちに待った同選手が、横浜方向からビュン、ビュン飛ばして、我々の眼前に忽然と現れた時には一同「ヒビキ!!」と精一杯の大声を上げて応援しました。しかしその時間は、ほんの一瞬に過ぎず、姿が見えたと思ったらサッと目の前を走り去って行きました。それでも、我々は大満足でした。

そして、帰りの電車に乗り、車中でタブレット端末を開いて実況放送を見ながら、今度は、鶴見中継所で古和田選手が最終ランナーの荻野大成選手(人間科学部4年生)に「襷」を所定の20分以内に引継ぐことが出来るかどうかを、ハラハラ・ドキドキしながら観戦し応援しました。祈りが通じたのか、「襷」は繰り上げスタートが始まる僅か約2分前に荻野選手に渡った時は、我々9名は皆ホッとして電車の中で思わず万歳をしました(但し、声は

上げずに)。順位は15位でした。残った3校は全て繰り上げスタートになりました。やがて、電車は町田市のJR成瀬駅について下車をした我々は、予約していた新年会場に到着。引き続きタブレット端末を宴会場のテーブルに置いて、お酒を酌み交わしながら応援を続けました。1時44分に大手町に荻野選手が区間11位の健闘をしてゴール・インした時は、全員が一斉に拍手をして、喜びの祝杯を挙げました。荻野選手は頑張って2人を抜き復路は13位、総合順位は16位になっていました。

来年正月3日も箱根駅伝の応援に行き、町田に帰って来てから新年会を行いますので、OB/OGの皆様はご参加下さい。当日の集合時間/場所等については当会の担当幹事藤田秀一さん(昭52 法律卒、fujita0216shuichi@icloud.com)或いは会長(この会報 P.8 の誌名欄に会長の連絡先を表示)にご照会をお願いします。

(2ページに続く)



令和元年度町田宮陵会総会 2019.6.16
ホテル町田ヴィラにて開催

「母校の近況」

1. 本年4月 横浜キャンパスに「国際日本学部」が開設されました。

同学部は国際文化交流学科、日本文化学科、歴史民俗学科の3学科で構成され、2021年4月から新設されるみなとみらいキャンパスに外国語学部、経営学部と共に移転予定です。みなとみらいキャンパスは、グローバル系学部が一堂に集結して、日本と世界、異文化をつなぐ「真の国際人」を育成する学びの場となります。



完成間近のみなとみらいキャンパス

2. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応

卒業式・学位授与式及び入学式は残念ながら中止となりましたが、今年度前学期の授業については5月11日(月)から、すべて授業が遠隔(オンライン)方式で始まりました。また取り敢えず8月1日までは教職員及び学生の大学構内への入構禁止措置がなされています。

尚、すべての学生には、オンライン授業の学修環境を整える修学支援金として一律5万円給付することになりました。

母校の最新情報につきましては、神奈川大学公式ホームページをご参照ください。

2019年度事業・決算報告及び2020年度事業計画・予算書

今年度の総会は、新型コロナウイルス感染防止のため開催を中止としました。今回は、緊急事態のため、総会の承認は得ませんが、会則15条に基づき、役員会にて議案を審議・決定したことをもって、議案が有効に成立したと見做すことをご諒解頂きたく願います。成立した議事の内容は次の通りにつき、ご確認をお願いします。

1. 2019年度事業報告

[2019(平成31)年4月1日～2020(令和2)年3月31日]

再建後2年目になった当会は、会則第3条の目的を達成するために次の事業を行いました。

(1) 会員相互の親睦を深め、母校の発展に寄与するための事業

- ① 2019年6月16日(日)に「ホテル町田ヴィラ」にて、2019(令和元)年度定期総会を開催した。参加者は計25名。町田市内在住の橘川俊忠名誉教授(元神大日本常民文化研究所長)より「常民の視点から地域の歴史を考える～町田に移住しての感想」を講演して頂きました。
- ② 2019年9月19日(木)には、当会の第2回定例役員会を、横浜キャンパス内に新装なってオープンしたばかりの宮陵会館と同キャンパスの見学を兼ねて会館内の会議室にて開催しました。終了後は、懇親会を六角橋の「福臨門」にて実施しました。
- ③ 2019年10月に神大ホームカミングデーに参加を計画していましたが、当日は台風19号襲来の為に開催中止となりました。
- ④ 2020(令和2)年1月3日、箱根駅伝の復路を沿道の東神奈川駅前応援集中ポイントで応援しました。当会よりの参加者は9名。帰途、町田市成瀬の「町家カフェ」で新年会を開催しました。

(2) 広報活動の効果的な実施

会員への情報伝達の向上を目指して、「神奈川大学宮陵会」のHPページにリンクする形で「町田宮陵会」のHPを2019年9月に立ち上げました。会員への行事予定通知や会員間の交流促進に役立つことを期待しております。

(3) 現役学生及び卒業生との交流・連携事業

町田市民に歓迎され、かつ母校のイメージアップにも役立ち、その一方で母校の現役学生や校友達(卒業生)にも喜んで参加して頂くことができるイベントは何か、実現性を先ず念頭において、役員会の都度、意見交換を重ねてきましたが、今期は特定の実施項目を見つけることは出来ませんでした。来期は具体的な案件を探し出したいと考えています。

(4) 定例役員会の開催

再建総会后、原則として、毎月1回の定例役員会を開催してきましたが、今期は本年2月14日の役員会を最後にして、新型コロナウイルスの感染防止の為に3月の役員会を開催を断念し、関係役員間で電話やE-Mailで連絡を密にして会務を進めてきました。

2. 2019年度決算報告

(自 2019(平成31)年4月1日 至 2020(令和2)年3月31日) (円)

科目	予算額	決算額	摘要
(収入の部)			
前年度繰越金	41,668	41,668	
会費収入	50,000	49,000	年会費2,000円×24名 +寄付1,000円
宮陵会本部からの助成金	81,300	77,408	通信費+女性会員交流費
懇親会費収入	125,000	97,000	懇親会費5,000円×17名
雑収入	0	121,000	総会祝儀5件61,000円 台風災害見舞金60,000円
収入額合計	297,968	386,076	
(支出の部)			
会議費	10,000	850	役員会会議室使用料
通信費	73,300	77,698	総会案内葉書代等
事務費	46,000	8,401	
総会開催費用	135,000	125,000	5,000円×25名
雑費	10,000	11,524	津久井宮陵会祝儀+銀行手数料
予備費	23,668	0	
次年度繰越金		162,603	
支出額合計	297,968	386,076	

2020年6月1日 会長 古家 秀紀 ㊟
 会計 山形英次郎 ㊟
 監査 船渡 幸彦 ㊟
 監査 岡田 繁 ㊟

(1ページから続く)

本年度の総会は、6月に開催する予定で会場も予約済みでしたが、新型コロナウイルス感染防止の為に中止することに決めました。その為に通常ならば、昨年度(2019)の①事業及び②決算報告並びに本年度(2020)の③事業計画と④予算書、そして⑤役員改選については会則第11条の規定に基づき総会で審議・承認をして頂かなければならないのですが、今年度は上記の理由で総会を中止した為に、総会でご承認を頂くことが不可能になりました。しかしながら、会則第15条の規定、即ち「本会則に定めのない事項については役員が協議して決定する」を適用すれば①～⑤は役員会で協議・決定したものにつき、会務上有効に成立したと見做すことが出来て、会務を前進させることが出来ると判断するに至りました。従って、本年度は総会での承認は得ませんが、会則15条に従って、①～⑤は有効に成立したと見なして会務を前進させるこ

とに致しますので皆様のご了解をお願い致します。①～⑤の全文をこの会報に掲載しますので、若し、疑問点や異論を有する方がおられましたら会長宛にご連絡をお願い致します。

新型コロナウイルスに効くワクチンなど、感染を収束する為の術を人類は未だ有していません。従って、今後第2波、第3波と感染の波が襲って来る可能性が予測されています。伝統的に日本人は握手や抱擁をしないことや、清潔な生活習慣を持っていることが感染防止に役立っているようですが、予断は出来ません。各人が細心の注意を払って、感染しないように生活することが大事です。

環境は厳しいですが、母校の発展に役立つ事業や町田宮陵会の会員相互の親睦向上に役立つ活動を実施したいと考えていますので、皆様の積極的なご提案やご参加を宜しく願います。

3. 2020 年度事業計画

[2020(令和2)年4月1日～2021(令和3)年3月31日]

会則第3条の目的を達成するために次の事業を実施する。

(1) 当会は発足3年目に入り、会員相互の親睦を深め、母校の発展に寄与するための事業

- ① 2020(令和2)年度定期総会の開催(新型コロナウイルス感染拡大のために中止することになりました)
- ② 2020(令和2)年11月8日(日)に開催予定の母校の「ホームカミングデー」に参加
- ③ 2020(令和2)年11月末又は12月始めに「忘年会」の開催(具体的な開催日時と場所は当会のHPに事前に掲載しますので、所定の日迄にお申し込みの上、是非ご参加をお願いします。)
- ④ 2021(令和3)年1月3日「箱根駅伝の沿道応援」と「新年会」の開催
- ⑤ 地域貢献活動の一環として、町田・相模原両市の間を流れる「境川」の清掃作業を毎年一回行っている地域のボランティア活動に相模原宮陵会と連携して参画することを検討中。この清掃は地域のボランティア団体が約20年前より始めたもので、毎年1回、4月に実施している。本年度はコロナの関係で作業が中止になったために、当会の参加体制が実った場合は、来年4月からの実行となる。従って、本年度は関係団体との折衝と組織化、実行体制の準備活動となる。
- ⑥ 神奈川大学との共催で町田市民を対象にする神大教授による文化講演会、吹奏楽部又は管弦楽団等による演奏会の実施を検討するチームを立上げて実行可否と開始時期の検討を行うこと。
- ⑦ 会員の時間の都合が付く範囲内に於いて、神大硬式野球部、サッカー部等の応援に参加すること。
- ⑧ 宮陵会東京ブロック会議の開催への前向きな検討を行うこと。

(2) 広報活動の効果的な実施

- ① 町田宮陵会「会報 No.1(創刊号)」の発行
- ② 「町田宮陵会のHP」に登載継続

(3) 現役学生及び卒業生との交流を積極的に行い、連携を深める

左記(1)⑦の他に、宮陵会本部から推薦されてくる現役学生や市内在住の在学学生・卒業生との積極交流

(4) 役員会の開催

1ヶ月に1回程度の頻度で定例役員会の開催。また必要な時は臨時役員会の開催

4. 2020 年度予算書

(自2020(令和2)年4月1日 至2021(令和3)年3月31日)

(円)

科目	2019 実績	2020 予算額	摘要
(収入の部)			
前年度繰越金	41,668	162,603	
会費収入	49,000	20,000	年会費 2,000 円×10 名
宮陵会本部からの助成金	77,408	0	
懇親会費収入	97,000	0	
雑収入	121,000	0	
収入額合計	386,076	182,603	
(支出の部)			
会議費	850	10,000	役員会会議室使用料
通信費	77,698	20,000	
事務費	8,401	35,000	会報印刷費+事務用品
総会開催費用	125,000	0	コロナウイルスのために開催中止
雑費	11,524	15,000	他の宮陵会への祝儀+銀行手数料
予備費	0	30,000	
次年度繰越金	162,603	72,603	
支出額合計	386,076	182,603	

5. 2020(令和2)・2021(令和3)年度 役員改選

会長 古家 秀紀 (昭和38 貿易卒) 留任
 副会長 鈴木 忠 (昭和44 経済卒) 留任
 副会長 松井 晋一 (平成9 経済卒) 留任
 幹事 大鶴 光彦 (昭和40 貿易卒) 留任
 幹事 渡辺 綱市 (昭和48 西語卒) 新任
 幹事 五十嵐 泉 (昭和49 II 機械卒) 新任
 幹事 藤田 秀一 (昭和52 法律卒) 留任

幹事 福元 摩湖 (昭和61 法律卒) 留任
 幹事 山形英次郎 (平成6 経営卒) 留任
 会計 古閑千保子 (平成13 英文卒) 新任
 監査 船渡 幸彦 (昭和37 経済卒) 留任
 監査 岡田 繁 (昭和43 応化卒) 留任
 事務局 旭 馨 (昭和62 経済卒) 留任

【特別寄稿】

再建総会及び第2回総会の開催にあたって、それぞれ町田市内に在住の神奈川大学名誉教授中田信哉先生と橘川俊忠先生をご招待して講演をして頂きました。今回の会報創刊号の発行を記念して、お二人の先生に神奈川大学と町田市にちなんだお話を執筆していただきました。

「町田から横浜へ」

神奈川大学名誉教授
中田 信哉 先生(町田市小川在住)

38歳から73歳までの35年間、僕は「絹の道(絹街道)」を往復してきた。美しく、華やかであり、懐かしくも少し悲しいシルクロードである。横浜開港以来、戦前まで日本の近代化を支え、一時期は日本の輸出の半分以上を占めたのが絹である。関東甲信越・東北から集まる絹(繭・糸・布)の多くは八王子の鑪水を経て横浜港へ。このルートこそ八王子と横浜の間に細長く横たわる町田(と相模原)が担った絹街道である。明治41年に開通した横浜鉄道(現・JR横浜線)は絹を運ぶために作られ、その後は僕を運ぶために存在した。かつては八王子―町田―横浜こそが日本の貿易のメインルートだったのである。

僕の華麗かつ豊饒たる人生(?)の歩みは町田から横浜への絹街道に例えられるだろう(今は見る影もないということか)。一時期、「神奈川大学を支える存在」だと言われ(たことはない)、「日本を代表する流通学者」だと言われた(こともない)僕にとっては高校・大学と杉並から横浜に通った若き日と合わせて、人生の黄昏を迎えた今、生まれ故郷の松江、青春時代を過ごした杉並、そして今も住み続けている町田、それから横浜は心のふるさとである。できれば過去帳に記しておきたくらいである。

神奈川大学(横浜専門学校)の創立の趣旨から言ってもその背景には貿易があり、絹街道がある。神奈川大学は町田が作ったと言える(本当か)。町田は「東京なのか神奈川なのか」という議論がある。僕はどちらでもよい。僕の心の中では町田も横浜も一つのものである。「横浜市町田区」なら文句はない。「東京都町田市」でもよい。「神奈川県町田市」でもよい。住民税が一番安くなるころがよい。



小田急線町田駅東口のカリオン広場にある「絹の道の碑」

「町田を歩く」

神奈川大学名誉教授
橘川 俊忠 先生(町田市金森在住)

町田に住み始めて二十年、ずいぶん市内のあちこちを歩いてきた。特に、大学を退職してからは散歩が日課になって、金森杉山神社近くの我が家から三、四時間の範囲を歩き回ってきた。ところが最近、新型コロナ肺炎によるステイホームで遠出は控えなければならなくなって、散歩も近場で済ませざるをえなくなった。

しかし、近場でも面白いコースもある。自宅から出て、町田街道を渡り、高ヶ坂を通り、熊野神社の脇を抜け、芹が谷公園の東側の台地に登り、恩田川沿いに下り、また登り返して榎木山公園に至り、旧鎌倉街道を通って高瀬橋を下り、さらに金森に戻るというコースである。このコースの途中には、稲荷山・牢場と八幡平という縄文時代の住居跡の遺跡がある。前者は「高ヶ坂石器時代遺跡」と刻まれた立派な石柱が建てられ、遺跡の石組みには覆い家もあり、小さな公園に整備されている。また、後者は現在整備中で台地の開けた場所に四阿(あずまや)もでき、近く公開される予定だという。



高ヶ坂石器時代遺跡

周りは開発が進んで、はるかな昔の人々の暮らしを知る手がかりはあまりないが、地形と植生をよく観察するとある程度のことは分かってくる。遺跡のある辺りは、多摩丘陵の南端で、恩田川沿いの谷戸が入り組んだ複雑な地形で、谷戸の多くには湧き水があり、細い流れがあって、水に苦労することはなかったのではないかと想像される。

そんなことを考えながら歩いていると、交通の便利さというより自然にめぐまれていたという意味で町田の住みよさが分る気がしてくる。コロナウイルスのせいで遠出はできなくなってしまったが、町田のよさを再発見できたとすれば、それもまたよしとしなければいけないのかもしれない。

写真でみる町田宮陵会の2018・2019年度の活動



第1回総会(2018.12.16開催)
会場：ホテルラポール千寿閣



古家会長による高らかな再建宣言



宮陵会本部から佐藤武
常務理事によるお祝辞



各地域組織から友情参加
(神奈川県久米会会長)



中田信哉名誉教授
による記念講演



盛会に行われた懇親会



第2回総会(2019.6.16開催)
会場：ホテル町田ヴィラ



橘川俊忠名誉教授
による記念講演



湘南ひらつかキャンパス
理学部の若手卒業生も参加



町田在住の教職員の方々も参加



懇親会で校歌斉唱



箱根駅伝(2020.1.3)
小和田響選手(第9区)



町田宮陵会による箱根駅伝応援
(東神奈川集中心援ポイント)



令和元年度新年会(町田市成瀬)

【2020・2021年度 役員紹介】

各役員に一言ずつ自己紹介のコメントを執筆して頂きました。

副会長 鈴木 忠(昭44 経済卒)

「天からのプレゼント？」

0.1 ナノmmのコロナウイルスがこれほどに世界を揺るがすことになるろうとは！今はただ、少しでも早い平穏を願わずにはいられません。

Stay Home も時間の経過の中で「やるべきこと、やりたいこと」が自然と見えてきました。

そんな中、私が嵌ったものの一つが江戸時代の古文書の「翻刻」です。5年ほど前から郷土史に興味を持っておりまして、昨年は母校神大元教授のK先生の社会人古文書講座を受講、古文書の翻刻の仕方や学習の仕方、時代の背景など懇切丁寧に教えていただき、益々興味をそそられました。そんな折のこの騒ぎ！たっぷりある暇に飽かしてPCをいじっていたら、古文書の「翻刻」が学習できるYouTubeや、Webコンテンツが沢山あることに気づかされました。そして色々新しいアプローチが出来るようになりつつあります。まさに天の恵みです。

昭和の経済戦士の我々世代にたいし天が「来し方を見つめ直し、余生の在り方を考える」というメッセージを下さっているのかと思えてなりません。

私は一つの目標として、古文書の「翻刻」に勤しみ江戸時代をもっと身近なものにしていきたいと思いを新たにしました次第です。



副会長 松井晋一(平9 経済卒)

平成9年に卒業して20数年、在学中に体育会ヨット部に在籍し卒業後、斉藤勤(前内閣官房副長官)さんの選挙応援で古家先輩と知り合ったご縁で、約10年前から町田在住となり町田宮陵会の立上げに携わることになりました。

私自身、ヨット部の監督をしていた時期もあり、多くの神大卒業生及び現役学生と交流する機会があり、同窓として応援もして頂いてとてもありがたく心強かった思いがあります。再活動した町田宮陵会を是非活性化させ幅広い世代で支援活動できるよう微力ながらお手伝いさせていただきたいと思っております。



幹事 大鶴光彦(昭40 貿易卒)

母校、神大を卒業して53年。楽しかった学校生活が走馬灯のように駆け巡っております。是非、宮陵会の皆様と楽しさを共有して、癒される会に少しでも貢献できるように努力したいと思います。

近況：最近、足が弱って杖を購入しました。人様に見られたくなかったのですが、見栄を捨てて使うようにしております。転んで骨折するのが怖いからです。まさしく転ばぬ先の杖です。



幹事 渡辺 綱市(昭48 西語卒)

「私にとって神大は今でも青春・最高の居場所」

昨年4月頃、古家会長から町田宮陵会の再出発のご連絡があり、即入会をさせて頂きました。卒業してから早37年が経ちましたが、神奈川大学は私にとっては青春そのものであり最高の居場所でした。町田にも1000人以上のOBがおられということで、その方々ともお話できるチャンスと思いました。



現在は仕事も町内会活動もやめて町田市の民生委員、児童委員としてボランティアをしておりますが、時間の許す限り町田宮陵会の発展に注力していきたいと思っております。

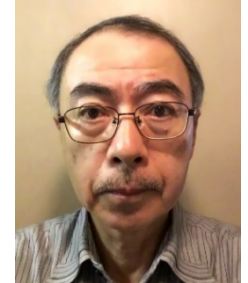
卒業したあとも、「同じ場所にいた者同士」であるOB同士はどこか相通ずるものがあるものです。歳が離れていても、どこか親しみを感じる人は多いのではないのでしょうか。情報共有の場にもなり得るOB会。このつながりが、いつか役立つときがくることと思います。

残念ながら、今年に入ってからには新型コロナの影響で本来の活動が相当制限されている状況となっておりますが、新型コロナが鎮静化したあかつきには箱根駅伝の応援をはじめとする各種行事に皆さまと楽しく明るく継続的に活動していけたらと願っております。どうかよろしくお願いいたします。

幹事 五十嵐 泉(昭49 II機械卒)

神奈川大学町田宮陵会の再建ならびに会報の発行をおめでとうございます。

私は町田市に居住して今年で40年となりますが、それと同時に町田宮陵会の役員に推挙されましたことを光栄に存じます。町田宮陵会の再建からはまだ日が浅く、安定した運営ができるのはこれからと考えております。



今後は、神奈川大学に44年の勤務経験を活かすと共に、町内会活動を通じた地域住民の方々との繋がりを基に町内会会長としての立場からも、町田宮陵会の更なる発展のためにお手伝いをさせて頂きたいと思っております。

幹事 藤田 秀一(昭52 法律卒)

私は2018年12月の町田宮陵会の再建総会から参加致しましたが、町田での30年間神大卒業生との交流は有りませんでした。約30年前まで仕事で秋田市に6年間在住し、その際に秋田宮陵会の再建を1984年に経験したことで、全く知人のいなかった秋田にたくさんの同窓の先輩・友人ができ、今でも交流が続いております。(P.7に続く)



(P.6 から続く) 町田宮陵会の皆さんとは1年半余り交遊を続けておりますが、年齢・職業を超えて一体感が生まれており、お正月の箱根駅伝の応援などでは大変盛り上がることができました。町田在住の卒業生の皆様もぜひ積極的に宮陵会にご参加頂き、新しい交流を始めて頂きたいと思っております。

幹事 福元 摩湖(昭61法律卒)

小学校1年生の夏から町田に住み、市外に出ることもなく50年がたちました。神奈川大学とのお付き合いは、1982年に法学部法律学科に入学して学生として通った4年間と、1986年から神奈川大学で働くようになった年数を合わせ38年となります。町田も神奈川大学も、多くの大切な人との出会いや様々なチャンスをくれた、かけがえない場所です。そんな町田に宮陵会支部を再建したいと熱い思いで取り組まれていた古家会長からお声かけいただき、微力ながらお手伝いさせていただきます。皆様も是非、町田宮陵会の集まりにご参加ください。お待ちしております。



幹事 山形 英次郎(平6経営卒)

「活気があり楽しく個性的な卒業生が集まる町田宮陵会」

現代人は生活していくことにおいて、より複雑化していくライフスタイルやビジネススタイルの中で物事を考えて実行していくことが必須になっています。その様なセンスを我々は神奈川大学という恵まれたキャンパスで学び、育ち、卒業しました。一緒に学んだ仲間たちは多くの分野で活躍しています。卒業した後も学びは続いていくのですが、この町田宮陵会での活動もその学びの延長と言えるものであり、同時に恵みを与えてくれた母校との繋がりを保ちながら少しでも母校に恩返しができる場であると考えています。一般的に日本の教育では「多様性とコミュニケーション」の力が必要だとよく言われます。しかし、これらは考えるだけでなく実践を積んでいかなければ伸びない力だと思います。町田宮陵会は卒業生と関わり合いながら、多様性、コミュニケーション力を含め、多方面で成長する力を習得していける場ではないかと思っております。活気があり、楽しく個性的な卒業生が集まる町田宮陵会をこれからも宜しくお願い致します。



会計 古閑 千保子(平13英文卒)

神奈川大学には社会人入学でした。同級生とは10歳ほどの年齢差がありました。しかし部活動や毎日の授業を通して、そんな年上の私を皆、自然に受け入れてくれたので、充実した大学生活の4年間を満喫することができました。

町田宮陵会の会合には昨年11月より参加させて頂いております。メンバーは様々な



社会経験を積んだ諸先輩方がたくさんおり、色々なお話を聞かせて頂き、大変勉強になります。今年1月3日には神大を卒業して初めて、箱根駅伝復路応援に参加しました。東神奈川駅前の国道沿いは、大学に近いことから神大の応援スポットになっていて、在校生や卒業生が駆けつけ神大カラー一色になっていました。

今年度は総会が開催できず残念ですが、是非多くの皆様にお会いしたいと思います。「町田宮陵会」の活動に、皆様のご参加をお待ちしております。

監査 船渡幸彦(昭37経済卒)

千葉から、生まれ故郷の横浜に近いこの町田に転居して来てから4年になります。在学時バスケット部に所属していた後輩(古家会長と同期生)を介して町田宮陵会の再建に協力要請があり、この縁でお手伝いさせて頂くことになりました。



現在も年甲斐もなく、神大バスケット部OB会の役を引受け、応援その他の行事には駆け付け、現役の方々から元気を貰っています。この町田宮陵会には、社会経験をされた諸先輩が多数おられて、気軽に意見・情報交換が出来ますので、当会の会合・行事には積極的に参加されることを願っております。

[註：船渡さんは、神大バスケット部OB会の元会長で現在は名誉会長です]

監査 岡田 繁(昭43応化卒)

昭和43年(1968年)3月神大応用化学科卒業生です。卒業後は神大工学部助手として27年間奉職させて頂きました。その後、国士舘大学理工学部に移り、助教授、教授と務め、その間、大学院研究科主任、学生部長、学長室長、副学長などを歴任致しました。2019年から神大町田宮陵会の役員としてお手伝いをしています。町田市在住の方々にこの会にご入会して頂けることを願っています。神大卒業生或いは在学生とは地域のイベントで交流を深めると共に母校の発展のために同窓会本部とも緊密な意見交換を行うことが主な目的です。



事務局長 旭 馨(昭62経済卒)

神奈川大学を卒業して、そのまま本学に事務職員として就職しました。私が在学していた頃とは本学学生の気質やキャンパスの様子も大きく様変わりしています。そのような中、教育支援センターという比較的新しい部署で日々教育改善と学生支援に取り組んでいます。本学学生と町田市に住む卒業生との繋がりを創るネットワークを町田宮陵会にて構築できたらと思っています。同じ釜の飯を食った同窓生との交流はとても楽しく格別のものであります。他の地域組織の見本となれる町田宮陵会と一緒に創っていただければ幸いです。



【寄稿文】

会員から寄せられた寄稿文をご紹介します。それぞれ母校と町田宮陵会への思いを綴っていただきました。

「大好きな神大、そして町田宮陵会への思い」

宮館 美樹 (平20法律卒、町田市図師町在住)

福島テレビ(株)に報道記者として勤務。都内の企業に勤務後、現在は第一子を子育て中の専業主婦です。年始はテレビにかじりついて箱根駅伝を応援。仕事で神大卒の方に出会うと、妙にテンションが上がって打ち解けたくなくなってしまいます。“六角橋”と聞くと過剰に反応する。そんな神大大好き人間の私です。



私の“芯”は神大での学生生活を通じて培われたと思います。学業だけではなく、ゼミや国際交流、友達との旅など、学生生活を通じてやりたいことをやり尽くし、多くの貴重な経験をすることができたと思っています。それができたのは、多くの機会が神大にあり、控えめながら人懐こく人情味のある友達たちと出会えたからだったと思います。卒業後、就職のために初めて町田の実家を出て、福島県へ移住。そして結婚後しばらく都内に住みましたが、やはり町田が好きで3年前に戻ってきました。

昨年、娘を妊娠中に、町田宮陵会の再建と市内におよそ1,150人もの卒業生が暮らしていることを知りました。



六角橋商店街に掲げられた箱根駅伝の横断幕

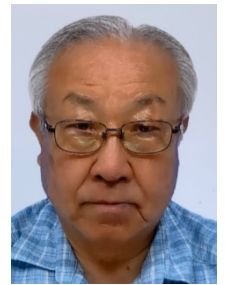
そして、町田宮陵会が母校のスポーツ応援や地域に根差した活動を企画しているのを知り、私もその一員として活動に参加したいと思うようになりました。今は子育て中で時間が取れず参加は叶いませんが、いつか神大町田宮陵会で様々なバックグラウンドを持った卒業生や在学の方々と一緒に活動していきたいと切望しています。

峰尾文男さん(昭35経済卒。82才、町田市山崎町在住)からのメッセージ:

「町田宮陵会の再建！ご苦労様でした」

【昨年、当会より2019年度総会の開催案内状を送付したのに対して、峰尾文男さんより欠席のご葉書を頂きましたが、下記のメッセージが添えてあったのでご紹介します。】

「前略、本日、名古屋市より帰宅して、2019年度総会の開催案内状を読みました。同日配達されて来ていた「Kyu-Ryo No. 68」の21ページに「町田宮陵会の再建成的!!」が載っているのを読み、相模原・藤沢・津久井・三浦半島、そして私の知っている西多摩宮陵会の稲木英生会長などが出席され、盛大に昨年12月16日に再建総会が行われたことを知りました。ご苦労様でした。処で、私は月の内、15日間、即ち月初めの5日より20日迄は、町田を不在にしている為に、今回も参加することが不可能で申し訳ありません。私は居住地町田と人生2番目の職場(在名古屋市)との間を、新東名高速で片道330km、22年間...今でもトヨタの車で通っています。草々。」



【編集後記】 30数年ぶりに再建した町田宮陵会の会報(No.1)をお届け致します。今回は、創刊号ということもあり、役員を中心とした記事となりましたが、各役員の高い思いが伝わることを期待しています。神奈川大学は、2028年の100周年に向けて、みなとみらいキャンパスの開設や新学部(国際日本学部)を創設するなど大きく飛躍しています。町田市在住の卒業生の皆さんとともに母校の発展を応援し、校友同士の交流・親睦も盛んにしていきたいと考えています。是非皆さんも活動にご参加いただければ嬉しい限りです。

◆町田宮陵会の年会費 納入のお願い◆

会費は当会の活動に有効に使わせて頂きますので、ご賛同頂ける方は本年度の年会費を下記銀行口座にお振込みのほどをお願い申し上げます。

振込先：神奈川大学町田宮陵会 古家 秀紀(こが ひでのり) 年会費：2,000円
横浜銀行町田支店(支店番号 931) 普通口座 6216595

神奈川大学 町田宮陵会 会報 No.1(創刊号)

発行日 2020年7月1日 発行 神奈川大学町田宮陵会 会長 古家(こが)秀紀
〒194-0032 町田市本町田 3,599 弥生ヶ丘 41

TEL・FAX 042-723-1362 E-mail h.koga@dream.com

ホームページ <http://kyuryou-soshiki.kanagawa-u.ac.jp/machida/>

Facebook <https://www.facebook.com/groups/1106828689705331/>

※ホームページには当会の活動報告を随時掲載しますので是非ご覧ください。



Homepage



Facebook